

平成19年度決算の概要と第9次中期経営計画
「創造と変革への挑戦～3Cプラン」の総括
(平成17～19年度)

2008年5月28日

頭取 中西 勝則

Dream with you.



静岡銀行



目次

I 平成19年度決算の概要

平成19年度決算の状況	2
グループ会社の状況	3
貸出金の状況	4
有価証券の状況	5
預金の状況	6
預り資産の状況	7
手数料収益	8
与信費用	9
不良債権の状況	10
金利上昇による収益への影響	11
自己資本比率の状況	12
株主還元の状況	13

II 第9次中期経営計画の総括

収益モデルの構築①	14
収益モデルの構築②	15
地域密着型金融への取り組み	16
経営インフラの構築	17
静岡銀行の高い信頼性	18

III 平成20年度の取り組み

第10次中期経営計画 初年度の経営目標	19
法人部門の取り組み	20
個人部門の取り組み	21
経費および投資・人員計画	22
平成20年度の業績予想	23

ご参考

静岡県経済の強み	24～25
----------	-------

I 平成19年度決算の概要



平成19年度決算の状況

(億円、%)

《連結決算の状況》	19年度	前期比	
		増減額	増減率
連結経常収益	2,451	+187	+8.3
連結経常費用 (△)	1,800	+263	+17.1
連結経常利益	651	△76	△10.5
連結当期純利益	348	△31	△8.1

《静岡銀行単体の状況》

経常収益	2,135	+211	+10.9
業務粗利益	1,365	+29	+2.2
資金利益	1,197	+77	+6.9
役務取引等利益	177	△1	△0.6
特定取引利益	29	+7	+32.2
その他業務利益	△38	△53	△355.1
(国債等債券関係損益)	△65	△49	△312.3
経 費 (△)	777	+36	+4.9
一般貸倒引当金繰入額 (△)	△2	+10	+81.3
業務純益	590	△17	△2.8
基礎的業務純益 ※	653	+42	+6.9
臨時損益	27	△34	△56.0
うち不良債権処理額 (△)	78	+25	+47.9
うち株式等関係損益	103	+57	+122.1
うち退職給付制度改定に伴う収益	—	△52	△100.0
経常利益	617	△51	△7.6
特別損益	△31	△23	△298.1
税引前当期純利益	586	△74	△11.2
法人税等 (△)	234	△64	△21.4
当期純利益	352	△11	△2.9

※基礎的業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

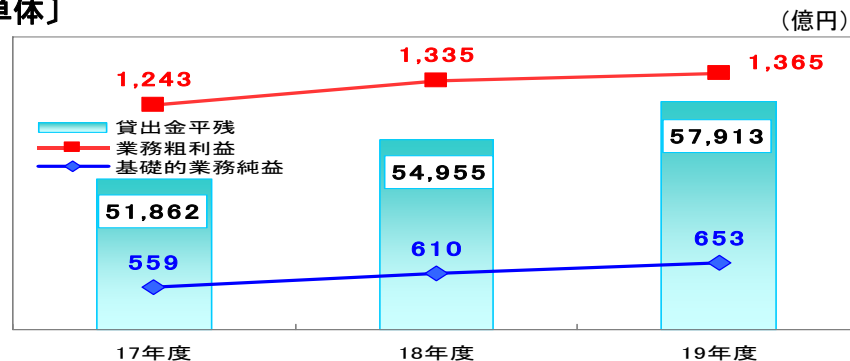
連結経常収益

4期連続増収

連結経常利益

6期振り減益

〔単体〕



トップライン拡大

経常収益

4期連続増収

業務粗利益

4期連続増益

〔資金利益内訳〕

	19年度	前期比
国内業務部門	1,155	+69
うち貸出金利息	1,143	+185
有価証券利息配当金	191	△5
預金等利息	170	+112
国際業務部門	41	+7

総資金利ざや	0.43	+0.02
預貸金利ざや	0.62	+0.05

基礎的業務純益は過去最高

業務純益

2期振り減益

基礎的業務純益

7期連続増益

経常利益

6期振り減益

当期純利益

2期振り減益



グループ会社の状況

- グループ会社（連結子会社11社）は、経常収益481億円（前期比 △1億円）、経常利益36億円（同 △20億円）の減収減益

（億円）

会社名	業務内容	経常収益	経常利益	備 考
静銀経営コンサルティング(株)	経営コンサルティング業務	3	1(△1)	コンサルティング情報受付369件
静銀リース(株)	リース業務	228	15(△2)	リース・割賦契約残高699億円
静岡コンピューターサービス(株)	コンピューター関連業務 計算受託業務	60	4(+1)	ISO27001の認証取得
静銀信用保証(株)	信用保証業務	12	7(△1)	有担保住関連ローン保証残高 5,919億円
静銀ディーシーカード(株)	クレジットカード業務 信用保証業務	23	5(+1)	無担保ローン保証残高281億円
静岡キャピタル(株)	株式公開支援業務 中小企業再生支援業務	5	0.8(+0.1)	「あいぎん未来創造ファンド」の投資先 1社が初めて上場
静銀ティーエム証券(株)	証券業務	37	12(△6)	預り資産残高3,642億円
欧州静岡銀行	銀行業務・証券業務	28	△10(△11)	貸出金(平残)193億円 有価証券(平残)339億円
静銀総合サービス(株)	労働者派遣業務等	36	0.4(△0.6)	ビジネススタッフの派遣2,245名
静岡モーゲージサービス(株)	銀行担保不動産の評価・ 調査業務等	8	0.6(△0.1)	担保評価業務26,505件
静銀ビジネスクリエイト(株)	為替送信・代金取立等の 集中処理業務等	41	0.5(+0.4)	伝票事務・文書振込被仕向事務の 集中化の全店展開完了
合 計 (11社)		481	36(△20)	
静銀セゾンカード(株) ※	クレジットカード業務 信用保証業務	0.4	△8(-)	「ALL-Sカード」会員数32,801件

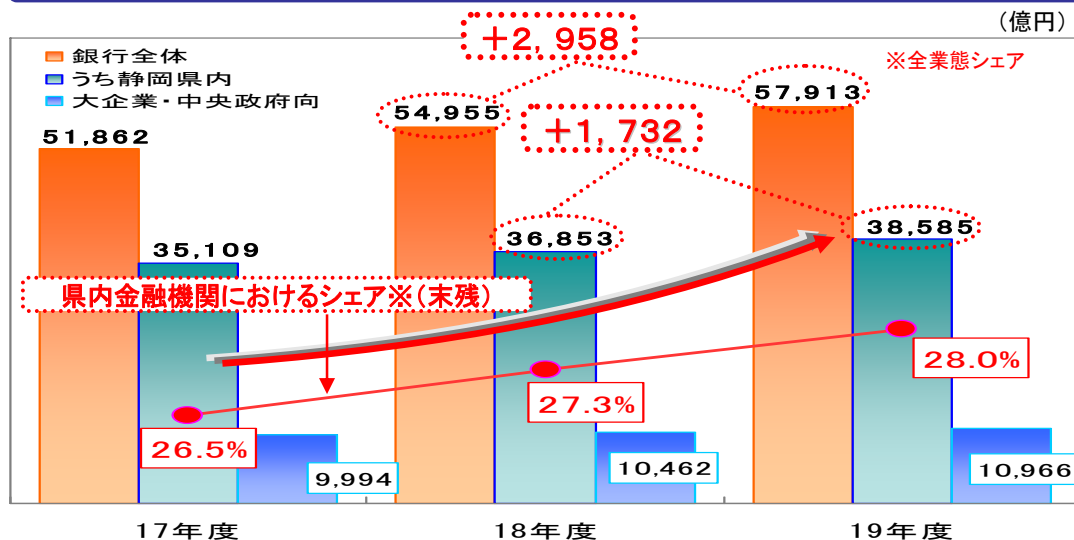
※持分法適用関連会社、平成19年4月開業

※経常利益の()内は前期比



貸出金の状況

総貸出金残高（平残）の推移



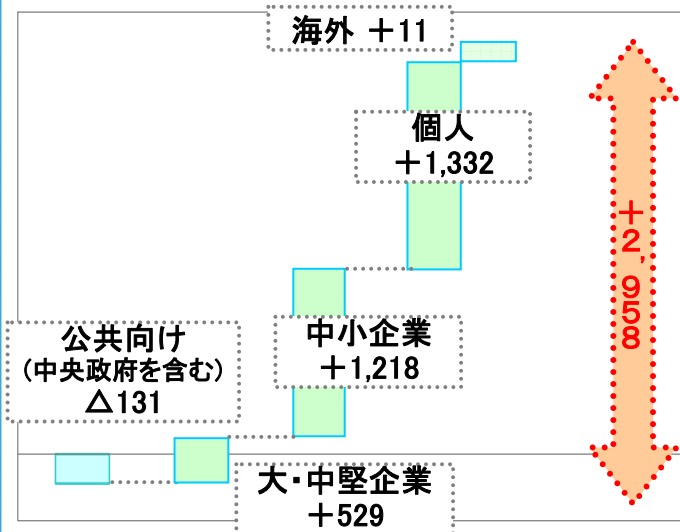
●19年度の総貸出金残高（平残）は57,913億円と前期比+2,958億円（年率+5.4%）の増加

- ・中小企業向け貸出金残高は 24,375億円と 同+1,218億円増加（年率+5.3%）
- ・個人向け貸出金残高は18,162億円と 同+1,332億円増加（年率+7.9%）
- ・中央政府を含む公共向け貸出金残高は1,426億円と 同△131億円減少（年率△8.4%）

貸出金（平残）の増減内訳

【増減額内訳(前期比)】

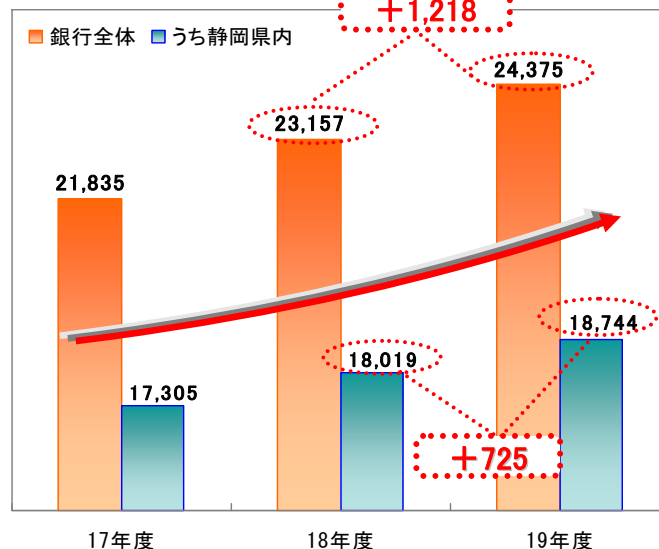
(億円)



うち中小企業向け貸出金残高（平残）の推移

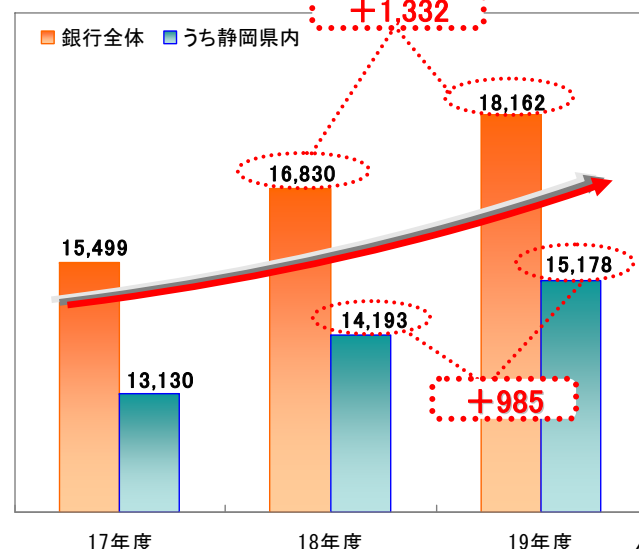
※地方公社を含まない

(億円)



うち個人向け貸出金残高（平残）の推移

(億円)



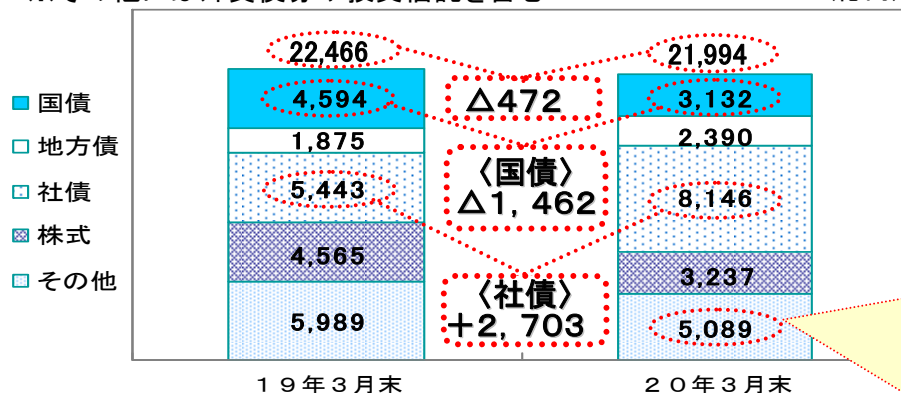


有価証券の状況

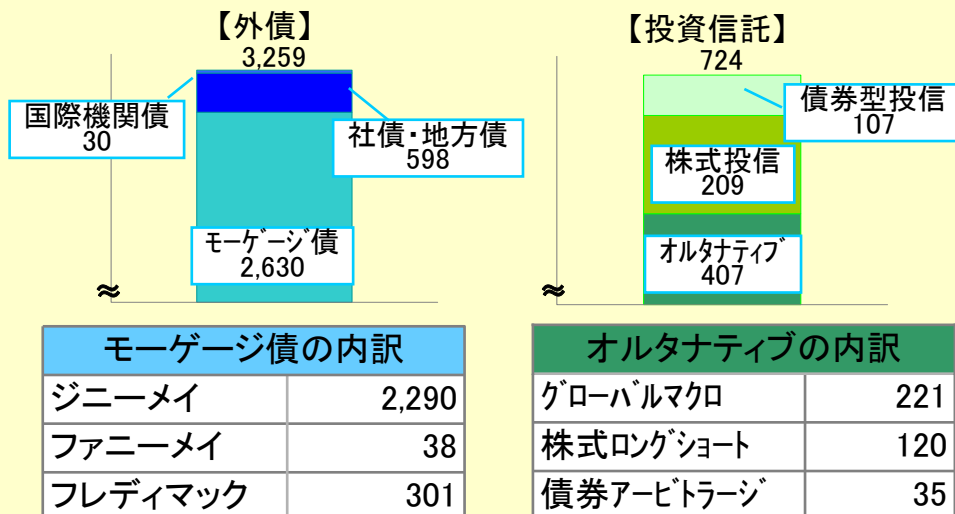
- 平成20年3月末の有価証券残高は21,994億円と19年3月末比△472億円の減少
サブプライムローン・モノライン関連エクスポージャーは残高なし
- 平成20年3月末の株式・債券・投資信託等の有価証券評価損益は+1,762億円と19年3月末比△1,256億円、うち株式評価損益は+1,770億円と19年3月末比△1,270億円の減少
- 有価証券利回り（期中平均）は1.83%と前期と同ポイント

有価証券残高の推移

※その他には外貨債券や投資信託を含む



その他の内訳



利回り・平均残存期間の推移

	19年3月末	20年3月末
利回り(期中平均)	1.83%	1.83%
平均残存期間(円貨)	2.60年	3.26年
平均残存期間(外貨)	1.67年	1.39年
有価証券評価損益	3,018億円	1,762億円
うち株式	3,040億円	1,770億円
日経平均株価	17,287.65円	12,525.54円

証券化商品の内訳

	19年3月末	20年3月末
RMBS※	2,921	3,465
CDO	41	0
Alt-A	30	0
CMBS	0	0

※有価証券以外に買入金銭債権116を保有しています

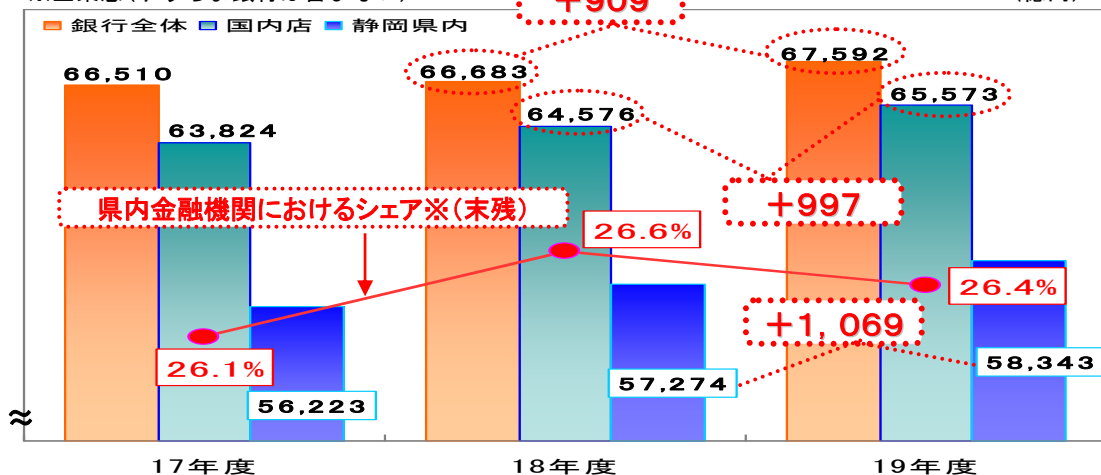


預金の状況

総預金残高（平残）の推移

※全業態（ゆうちょ銀行は含まない）

（億円）



●19年度の総預金残高（平残）は67,592億円と前期比+909億円（年率+1.4%）の増加

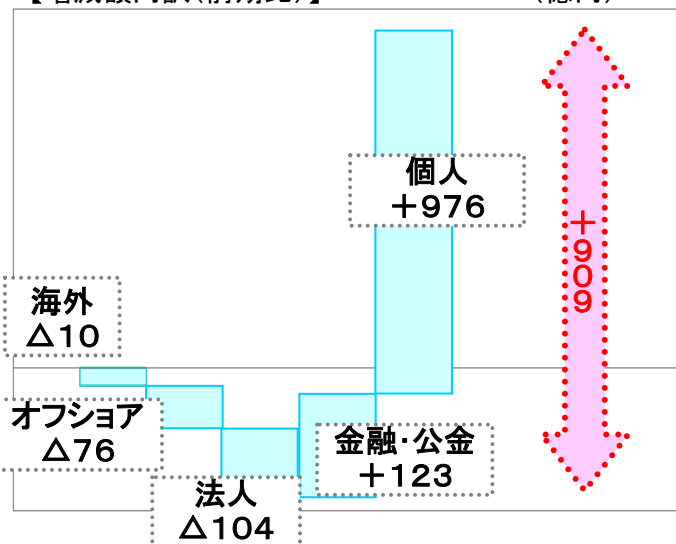
- ・国内営業店預金残高は65,573億円と同+997億円増加（年率+1.5%）
- ・静岡県内預金残高は58,343億円と同+1,069億円増加（年率+1.9%）
- ・個人預金残高は49,250億円と同+976億円増加（年率+2.0%）
- ・法人預金残高は14,518億円と同△104億円減少（年率△0.7%）

●なお、譲渡性預金を含む国内営業店預金残高は69,171億円と同+2,391億円（年率+3.6%）の増加

預金（平残）増減額の内訳

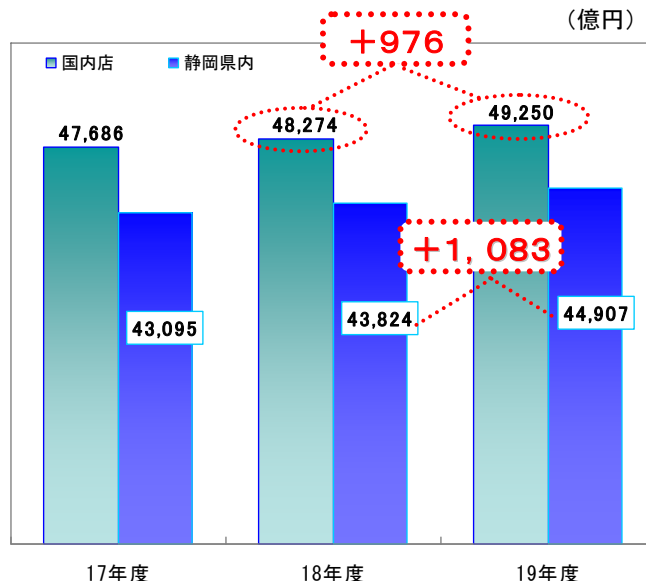
【増減額内訳（前期比）】

（億円）



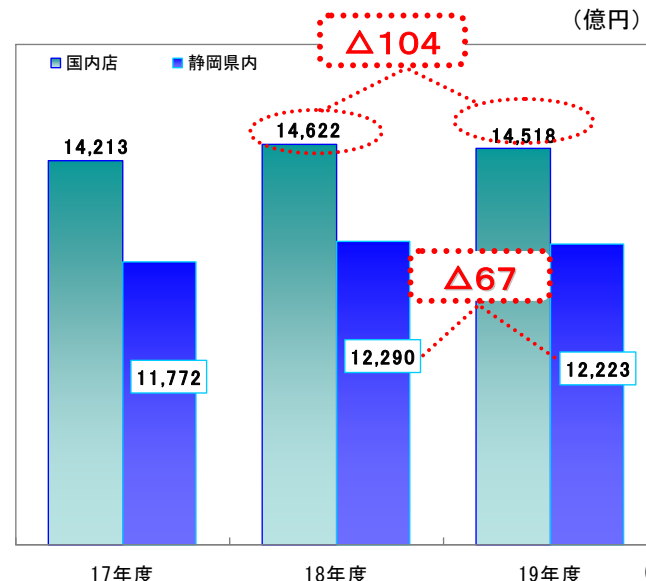
うち個人預金残高（平残）の推移

（億円）



うち法人預金残高（平残）の推移

（億円）

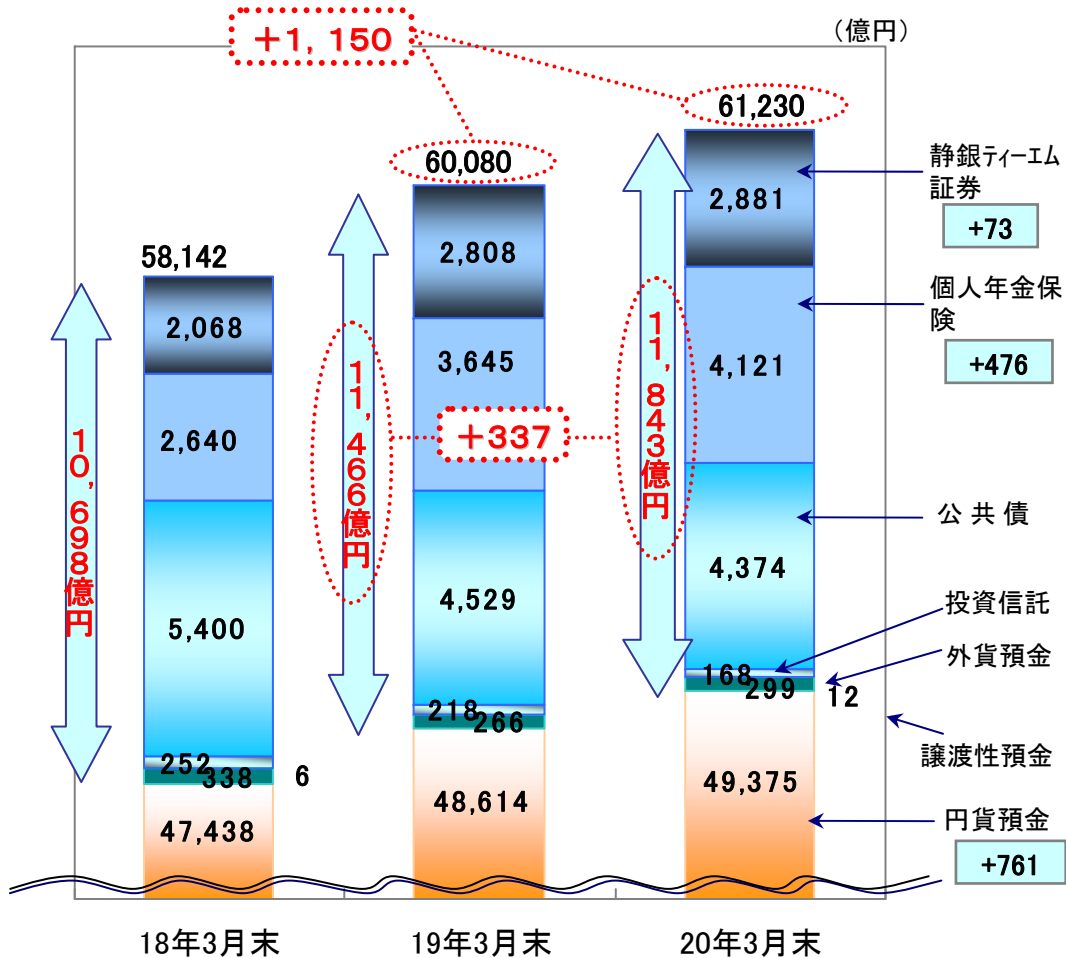




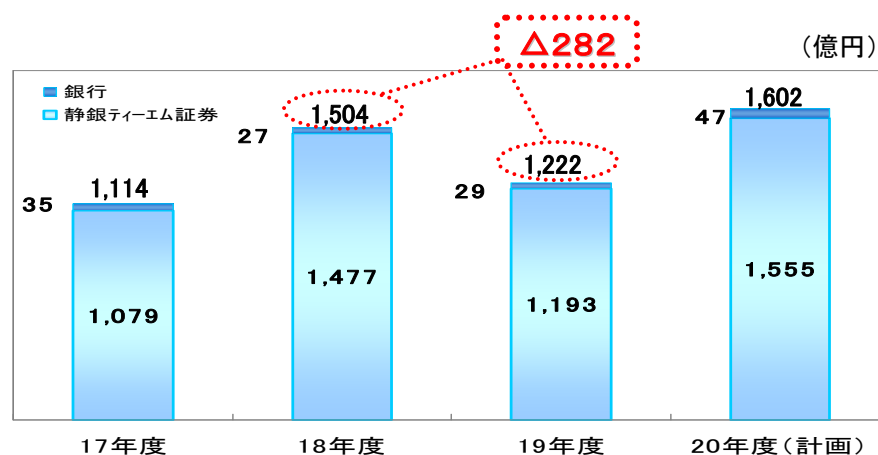
預り資産の状況

- 20年3月末の静銀ティーム証券㈱を含む個人預り資産残高は61,230億円（19年3月末比 +1,150億円）、うち円貨預金および譲渡性預金を除く個人預り資産残高は11,843億円（同 +377億円）
- 投資信託は、市場環境の悪化により販売額が伸び悩み
- 保険窓販は、引き続き、高収益の変額年金を中心に高水準を維持（19年度下期 地銀販売額第1位）

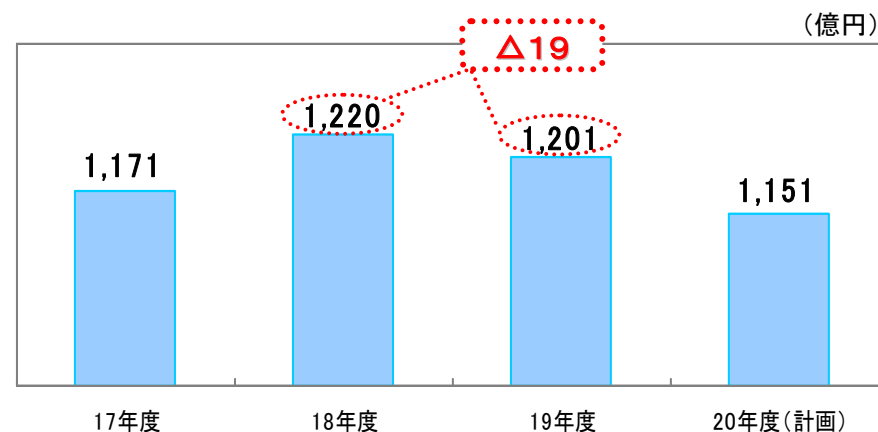
個人預り資産（末残）の推移



投資信託窓販額の推移



保険窓販額の推移

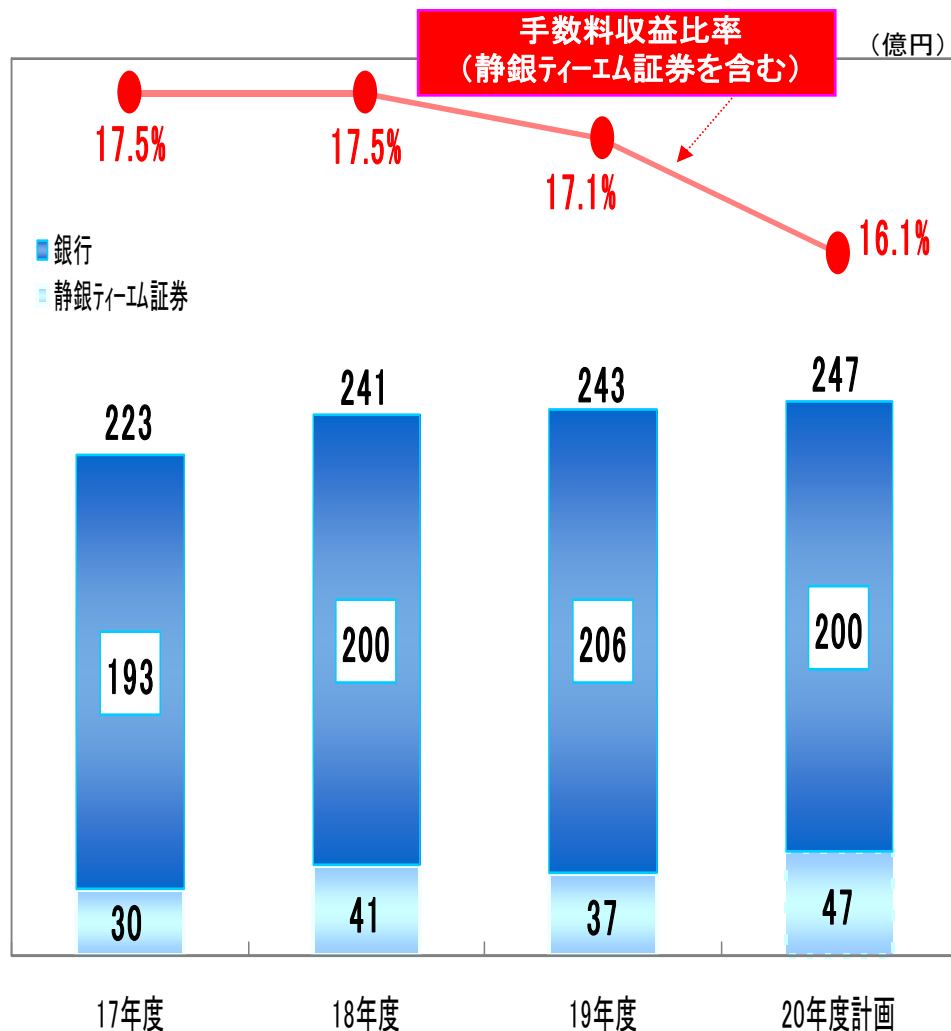




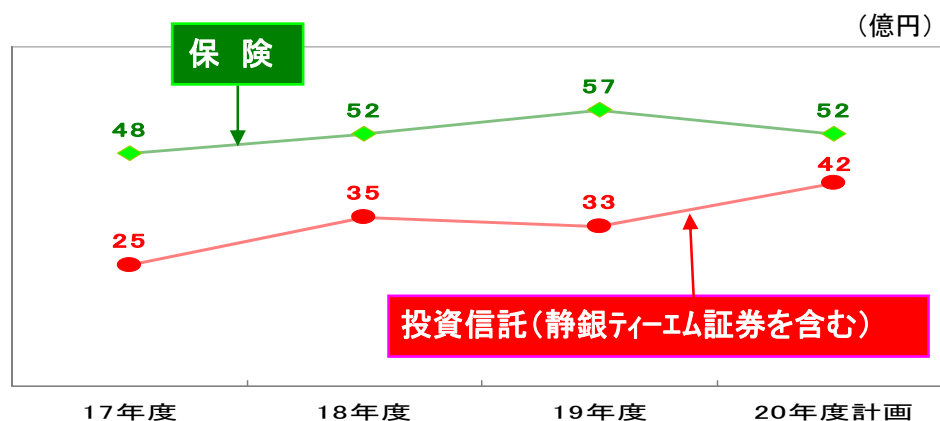
手数料収益

- 手数料収入は、保険窓販の手数料収入等により順調に増加
- 手数料費用は、ローン生命保険料を中心に増加

手数料収益（銀行・静銀ティーエム証券）



投資信託・保険窓販の手数料収益



手数料収入・費用

〔単体〕	19年度	前期比
手 数 料 収 入	285億円	+12億円
代 理 事 務 手 数 料 (保険窓販手数料など)	64億円	+4億円
受 入 雑 手 数 料	88億円	+3億円
手 数 料 費 用	79億円	+6億円
ロ ー ン 生 命 保 険 料	29億円	+2億円



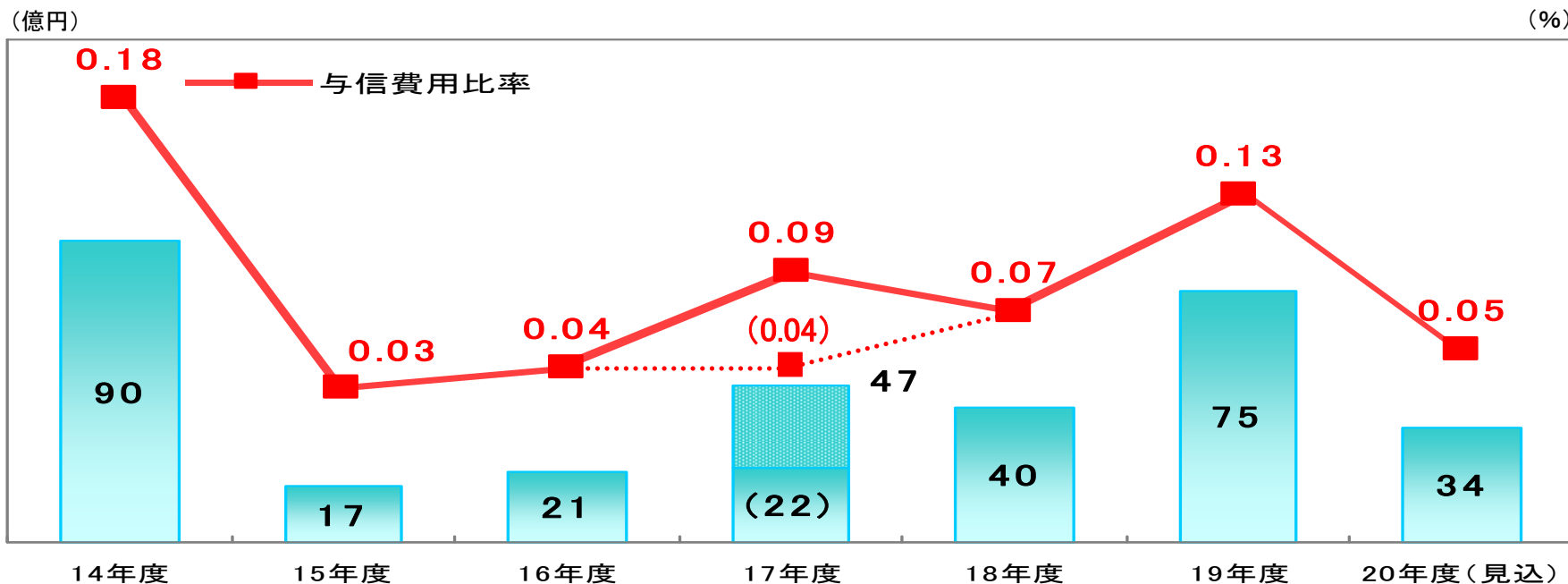
与信費用

与信費用：19年度 75億円（前期比+35億円）

- 一般貸倒引当金繰入額 △ 2億円（前年同期比 +10億円）
- 不良債権処理額 78億円（ // +25億円）
（うち個別貸倒引当金純繰入額 57億円）

・債務者区分の変更等 139億円
・地価下落 10億円
・格上、回収等による
個別引当金取崩 △92億円
合計 57億円

与信費用・与信費用比率の推移



※与信費用＝不良債権処理額＋一般貸倒引当金繰入額－貸倒引当金取崩額
19年度の不良債権処理額には、その他の偶発損失引当金繰入額を含む
17年度の（ ）は、貸倒実績率の算定期間変更による特殊要因を控除した場合

与信費用比率＝与信費用÷貸出金平残



不良債権の状況

- ・破綻懸念先以下 $\Delta 20$ 億円
- ・貸出条件緩和債権
3カ月以上延滞債権 +7 億円

リスク管理債権の状況（単体ベース）

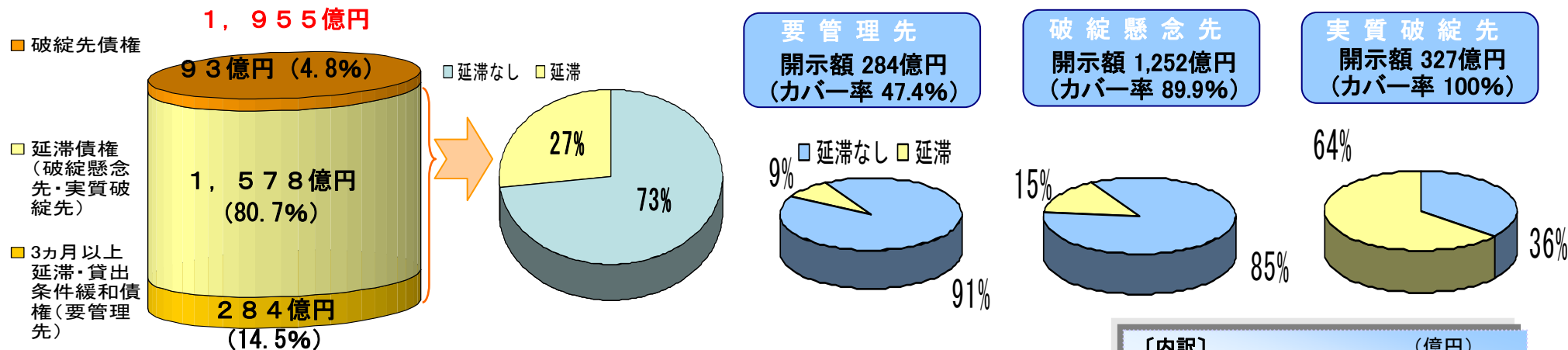
- 20年3月末のリスク管理債権の総額は1,955億円（19年3月末比 $\Delta 13$ 億円）
- リスク管理債権の割合は3.29%（19年3月末比 $\Delta 0.16$ ポイント）

～部分直接償却を実施した場合の139億円と、信用保証協会の保証付貸出金の892億円を控除した場合のリスク管理債権総額は924億円

部分直接償却額を控除した総貸出金に占める割合は1.55%（19年3月末比 $\Delta 0.13$ ポイント）

- カバー率85.90%（19年3月末比 +0.19ポイント）

20年3月末リスク管理債権の内訳



不良債権のオフバランス化実績

	16年度	17年度	18年度	19年度
新規発生	+559	+556	+489	+693
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	$\Delta 864$ ($\Delta 571$)	$\Delta 861$ ($\Delta 690$)	$\Delta 715$ ($\Delta 604$)	$\Delta 706$ ($\Delta 600$)
リスク管理債権	2,499	2,194	1,968	1,955

$\Delta 13$

〔内訳〕	(億円)
要管理先	126
破綻懸念先	461
実質破綻先・破綻先	106

600億円内訳の	■ 本人弁済・預金相殺 159 億円
	■ 担保処分・代位弁済 212 億円
	■ 格上 114 億円
	■ 債権売却 113 億円
	■ 直接償却 2 億円



金利上昇による収益への影響

- 平成18年7月および19年2月の政策金利引上げにともない、貸出金利の引上げを着実に実施

円貨貸出金・預金構成の変化（単月比較）

〔19年3月〕			〔20年3月〕		
	平残(構成比)	利回り		平残(構成比)	利回り
貸出金	5.5 (100.0)	1.91	5.8 (100.0)	2.04	
変動金利	4.0 (73.7)	1.93	4.2 (71.8)	2.07	
短プラ・新長プラ	2.6 (47.0)	2.37	2.6 (44.8)	2.52	
基準					
市場連動	1.3 (24.5)	1.01	1.5 (25.3)	1.20	
固定金利	1.4 (26.3)	1.86	1.6 (28.2)	1.96	
預金	6.8 (100.0)	0.19	7.1 (100.0)	0.27	
流動預金	4.0 (58.4)	0.16	4.0 (56.3)	0.17	
定期性預金	2.6 (38.1)	0.21	2.7 (38.7)	0.39	

〔預貸利回り差〕

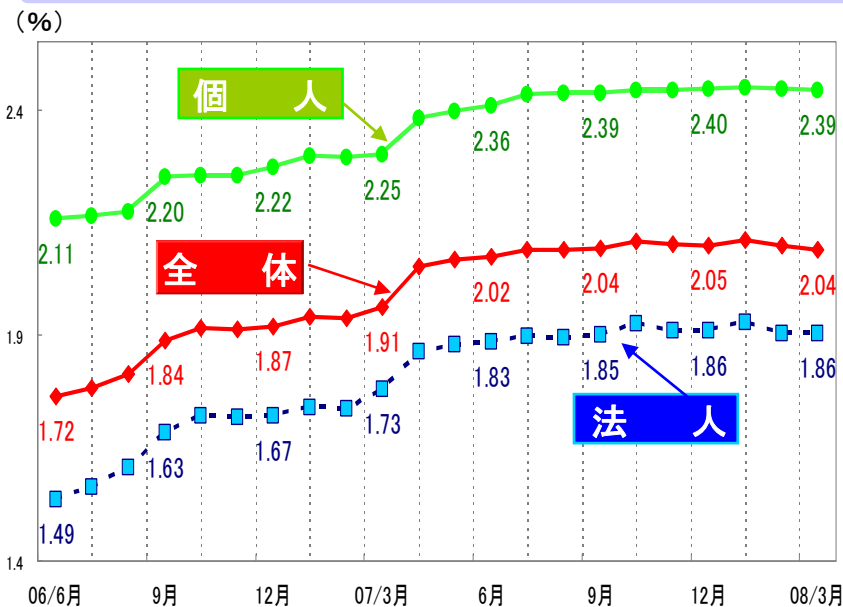
+1.72

+0.05

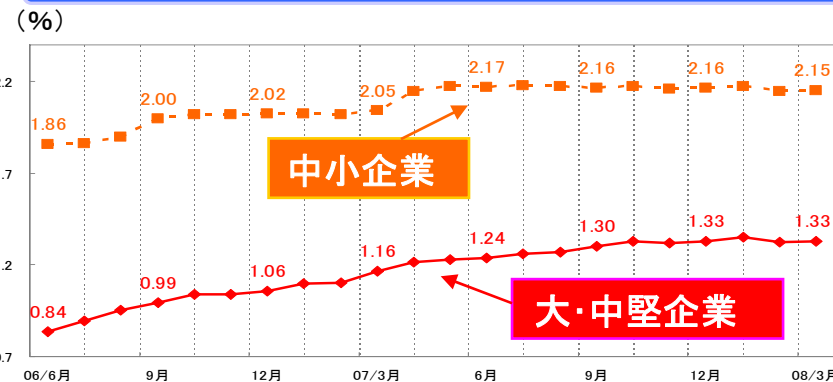
+1.77

※預金はNCDを含む

貸出金利（月中平均）の推移



うち企業規模別法人貸出金利の推移

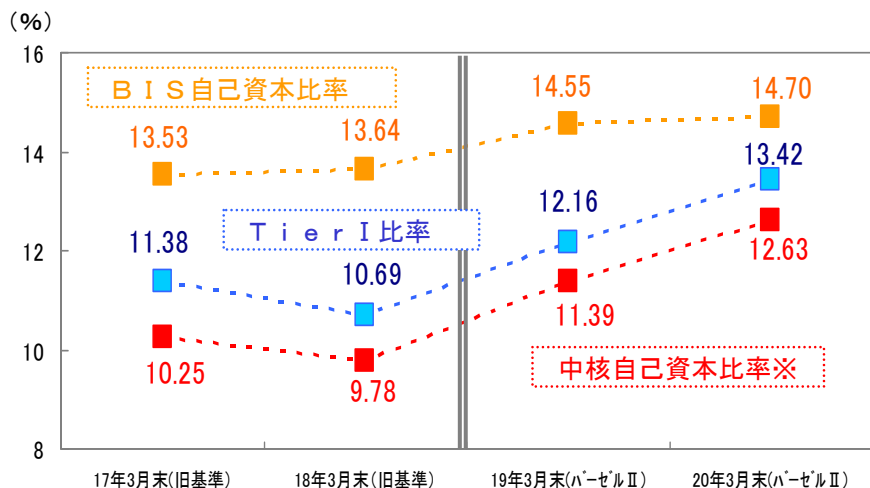




自己資本比率の状況

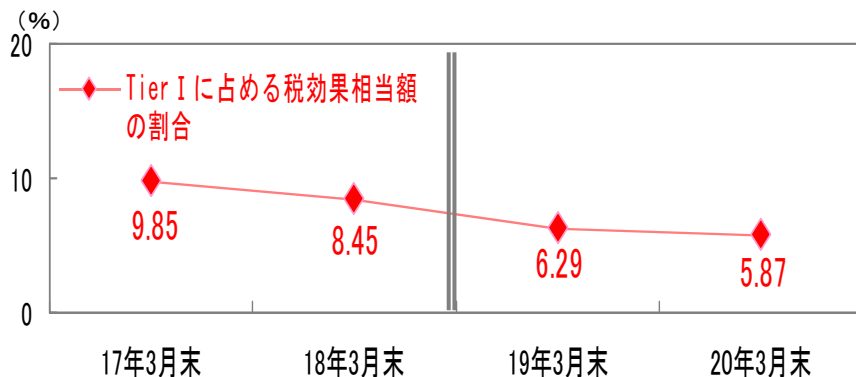
- 平成20年3月末バーゼルⅡによる自己資本比率(速報)は14.70%と、19年3月末に比べ信用リスク・アセット額の減少により+0.15ポイントの上昇
- バーゼルⅡでは、信用リスク・アセットの計算方法の精緻化に伴い、格付の高い事業法人向け貸出や住宅ローンなどの信用リスク・アセット額が大幅に減少

BIS自己資本比率(連結ベース)



旧基準

バーゼルⅡ



自己資本およびリスク・アセット等の推移

〔旧基準〕			〔バーゼルⅡ〕		
(億円)	17年 3月末	18年 3月末	19年 3月末	20年 3月末	19年 3月末比
自 己 資 本	6, 308	7, 125	6, 919	6, 504	△415
うち T i e r I	5, 303	5, 582	5, 785	5, 938	153
うち 税 効 果 相 当 額	523	472	364	349	△15
リスク・アセット等	46, 594	52, 199	47, 549	44, 232	△3, 317
うち 信 用 リ ス ク ・ アセットの額	46, 404	51, 940	44, 620	40, 895	△3, 725
うちマーケット・リスク 相 当 額 に 係 る 額	190	259	220	220	△0
うちオペレーショナ ル・リスク相当額に 係る額	—	—	2, 709	2, 837	128

※バーゼルⅡの計算方法は基礎的内部格付手法、粗利益配分手法を採用

アウトライヤー比較(単体ベース)

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
658億円	6,501億円	10.1%



株主還元状況

- 平成19年度 1株当たり配当額（年間）13円は地銀最高水準（配当性向25.96%、配当利回り1.10%）
- 平成19年度には、自己株式を市場買付により10百万株・126億円取得し、全株を消却
- 平成20年度については、「配当性向25%程度かつ大手地銀最高水準」の配当維持を目指し、市場動向、業績等を総合的に勘案して決定する方針のもと、1株当たり配当額（年間）14円を予定

配当額の推移

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度予想
一株当たり配当額（年間）	8.50円	10.00円	13.00円	13.00円	14.00円（7.00円）
配当利回り（配当/期末株価）	0.78%	0.84%	1.03%	1.10%	—

（ ）は中間配当額

株主への利益配分の状況

（単位：億円、%）

	16年度	17年度	18年度	19年度	10～19年度 （10年間）
年間配当額①	60	71	92	91	601（累計）
自己株式取得額②	—	—	—	126	941（累計）
株主還元額③＝①＋②	60	71	92	218	1,542（累計）
当期純利益④	350	314	363	352	2,458（累計）
配当性向①/④×100	17.18	22.57	25.39	25.96	24.44（平均）
株主還元率③/④×100	17.18	22.57	25.39	61.82	62.73（平均）

Ⅱ 第9次中期経営計画の総括

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

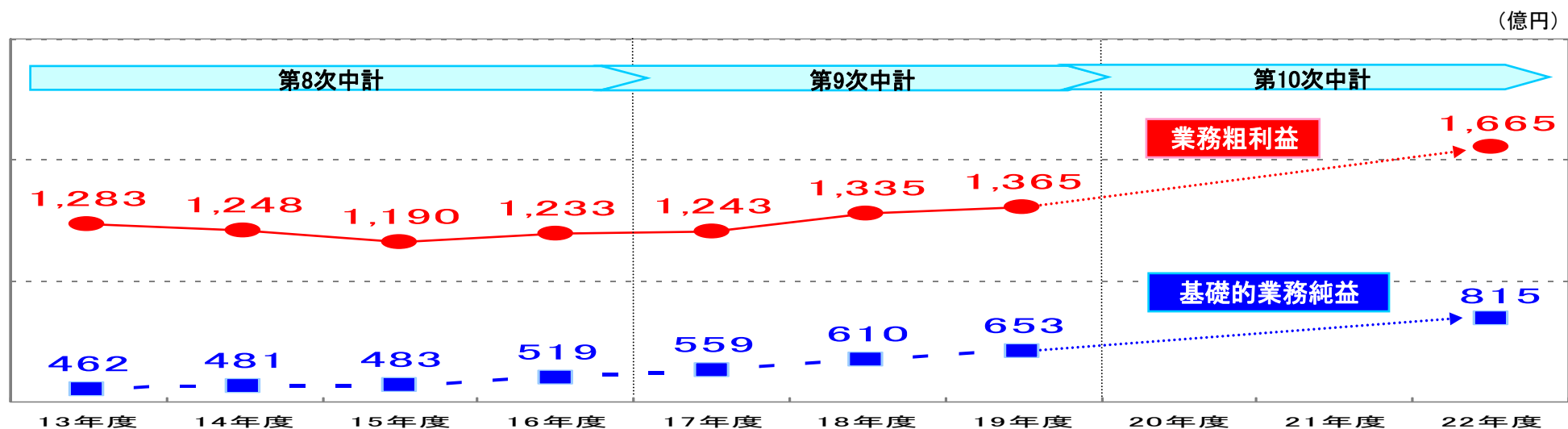
静岡銀行



収益モデルの構築①

グループの目標指標

		当初目標	17年度	18年度	19年度
収益目標	連結経常利益	600億円以上	582億円	727億円	651億円
	単体の基礎的業務純益	620億円以上	559億円	610億円	653億円
	連結当期純利益	350億円以上	331億円	378億円	348億円
効率性指標	連結ROE(当期純利益/Tier I)	6.5%以上	5.92%	6.42%	5.85%
	連結ROA(当期純利益)	0.4%以上	0.39%	0.43%	0.39%
	連結OHR	55%程度	58.3%	55.0%	56.7%
	コア連結OHR(債券関係損益除き連結業務粗利益)	—	56.3%	54.4%	53.9%
連結Tier I BIS自己資本比率(旧基準)		10%程度	10.69%	10.86%	10.87%





収益モデルの構築②

法人部門

(億円、%)	16年度	17年度	18年度	19年度	3年間増減
法人貸出金平残	30,774	32,308	34,257	36,016	+5,242
うち中小企業貸出平残	19,464	20,422	21,790	23,024	+3,560
法人預金平残	14,223	14,213	14,622	14,518	+295
ビジネスステーション管理先数	1,927	1,690	7,914	10,567	+8,640
ビジネスステーション貸出残高	108	92	562	895	+787
「ビジネスパスポート」累計販売額	—	—	13	53	+53
(静岡県内貸出金シェア)	26.0	26.5	27.3	28.0	+2.0

個人部門

(億円、件)	16年度	17年度	18年度	19年度	3年間増減
個人貸出金平残	14,440	15,499	16,830	18,162	+3,720
住宅ローン末残	7,511	8,305	8,947	9,660	+2,149
「ネクストワン」累計販売額(極度額)	—	—	165	263	+263
「アップグレード」累計販売額(極度額)	—	—	36	53	+53
個人預金平残	47,296	47,686	48,274	49,250	+1,954
投資信託(静銀ティーム証券を含む)販売額	451	1,114	1,504	1,222	※ 3,840
個人年金保険販売額	1,084	1,171	1,220	1,201	※ 3,592
joyca累計会員数	—	—	120,632	193,964	193,964

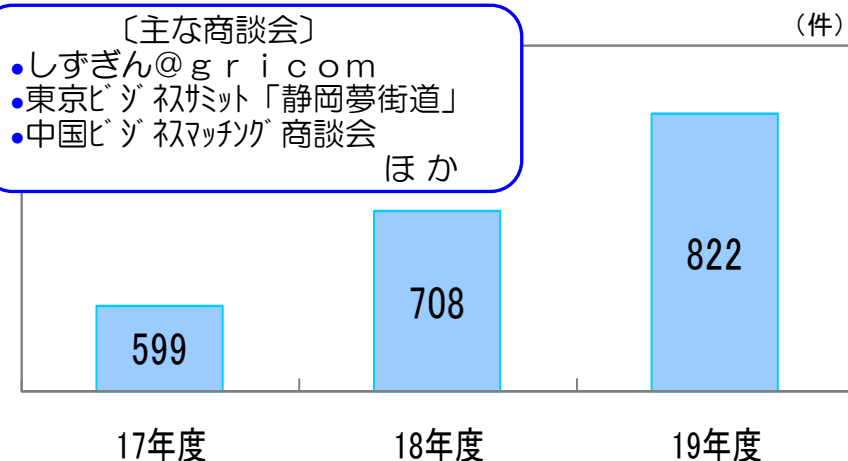
※17～19年度の販売累計額



地域密着型金融への取り組み

- 取引先の事業拡大に資するビジネスマッチングに取組み、次世代経営者塾「Shizuginship」をスタート
- 地域経済に与える影響が高い企業を中心に各種再生手法を活用し、迅速かつ円滑な事業再生を支援

ビジネスマッチングの成約実績推移



次世代経営者塾「Shizuginship」

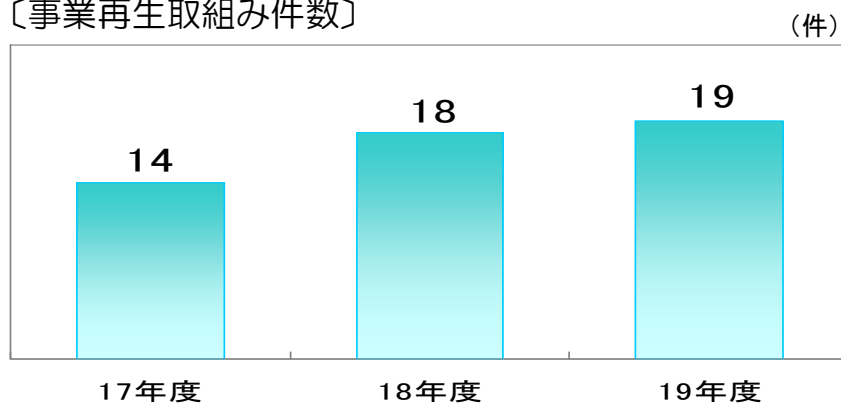
Shizuginship

- 会員数（20年3月末）
725社、1,111名
- セミナー・視察会への参加
（19年度中）
のべ2,517名



事業再生への取組み

〔事業再生取組み件数〕



〔事業再生に活用した手法〕

		3年間合計
全体	(件)	51
静岡中小企業支援ファンド「パートナー」・「スクラム」		10
事業譲渡・M&A		13
静岡県再生支援協議会		15
再生型バルクセール		6
その他		7



経営インフラの構築

- 新営業店システムの全店展開の完了により、バック業務担当者をフロント業務へ再配置
- 預金事務集中化の推進、業務集中部署の活用によるフロント特化型店舗の構築を進める

ITシステムの整備

- 営業支援システム（S-prit）の稼動
- 新営業店システムの全店展開
- 次期融資支援システム（S-navi）の導入（20年8月全店稼動予定）

〔システム費用(17～19年累計)〕

投資額	236億円
経費	336億円



業務集中部署の展開

- ビジネスステーション 7拠点
- 融資業務センター 3拠点
- 債権管理センター 1拠点



フロント人員増加への取組み

〔営業店の人員〕

	17年3月	20年3月	増減
行員	2,605	2,373	△232
フロント・窓口	2,120	2,160	+40
バック	485	213	△272
クイートパートナー・ビジネススタッフ	1,185	1,736	+551
窓口	259	481	+222
バック	926	1,255	+329

70%業務へ
シフト



静岡銀行の高い信頼性

- バーゼルⅡの適用開始に合わせ、リスク管理体制を整備
- S & P社による長期格付「AA-」に格上げ（平成19年12月）、邦銀では最高水準

リスク管理体制の高度化

- 「統合的リスク管理」をリスク管理の基本方針として明確化
- 自己資本比率の算出方法として、信用リスクは基礎的内部格付手法、オペレーショナルリスクは粗利益配分手法を採用

外部格付

〔長期格付〕		ムーディーズ社					
		Aa2	Aa3	A1	A2	A3	Baa1
S & P	AA-		静岡				
	A+	農林中金、信金中央金庫、 三菱東京UFJ、三菱UFJ信託、 みずほ、みずほコーポレート、 みずほ信託、三井住友	住友信託				
	A		中国	横浜、千葉、常陽、肥後、 中央三井信託			
	A-			群馬、りそな	あおぞら、 新生		
	BBB+					広島、福岡	北陸

Ⅲ 平成20年度の取組み

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

静岡銀行



第10次中期経営計画初年度の経営目標

グループの目標指標

収益目標

連 結 経 常 利 益

20年度計画

715億円
(公表690億円)

22年度計画

850億円以上

単 体 の 基 礎 的 業 務 純 益

670億円

800億円以上

連 結 当 期 純 利 益

409億円
(公表400億円)

500億円以上

効率性指標

連 結 R O E
(当 期 純 利 益 / Tier I)

6.5%以上

7%台

連 結 R O A
(当 期 純 利 益)

0.47%以上

0.5%以上

連 結 O H R

55%程度

50%程度

健全性指標

連 結 B I S 自 己 資 本 比 率
(Tier I 比 率)

13.0%程度

12%程度

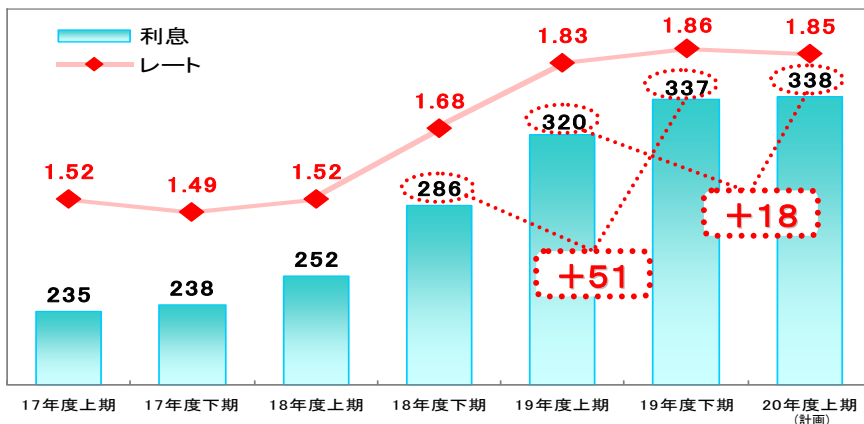


法人部門の取組み

- お取引先のライフサイクルに応じた経営課題やニーズを発掘し、高付加価値のソリューションを提供する
- 「Shizuginship」を通じ、お取引先の後継者育成に有効な永続的かつ高品質なサービスを提供する

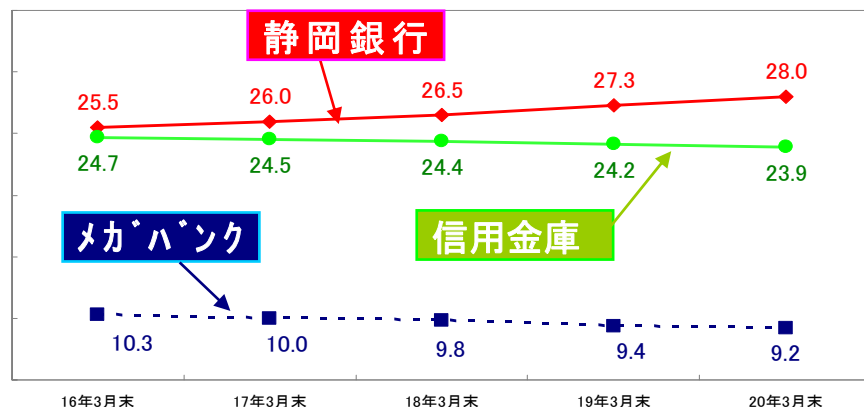
法人部門の円貨貸出金利息およびレート推移

(億円、%)



静岡県内貸出金シェアの推移

(%)



〔20年度計画〕

- ・円貨貸出金平残増加+1,384億円
- ・利息増加+20億円
- ・手数料収益獲得32億円

〔主な取組み〕

〔19年度実績〕

〔20年度計画〕

中小企業貸出の平残増加	+1,234億円 (当初計画1,027億円)	+1,006億円
新規貸出先の獲得額 (東京、名古屋、大阪を除く)	1,022億円	1,200億円
ビジネスマッチング件数	822件	1,000件
対顧客デリバティブ手数料獲得	28億円	23億円
外為取引(経常取扱高)の強化	48億ドル (当初計画44億ドル)	46億ドル
法人円貨預金の積上げ (平残増加)	△104億円	+196億円

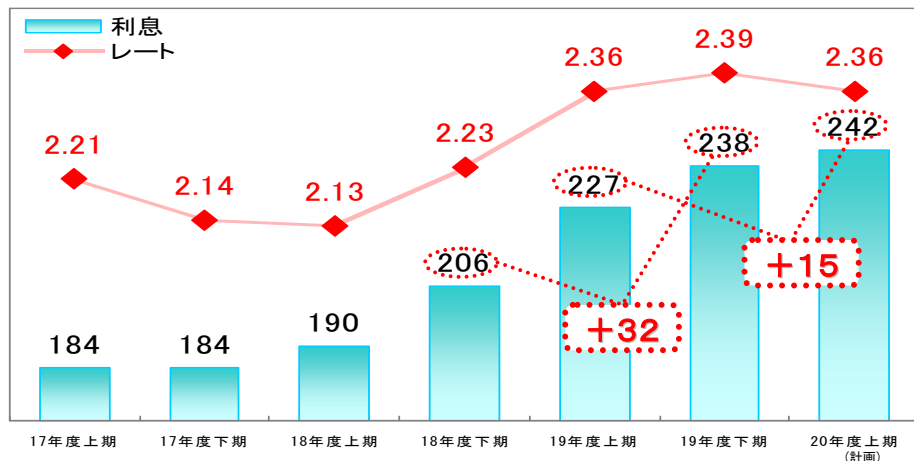


個人部門の取組み

- 個人部門は、住宅ローンを中心とした消費者ローンの積上げにより収益向上をはかる
- 富裕層とのリレーション強化を通じ収益拡大を目指す

個人部門の円貨貸出金利息およびレートの推移

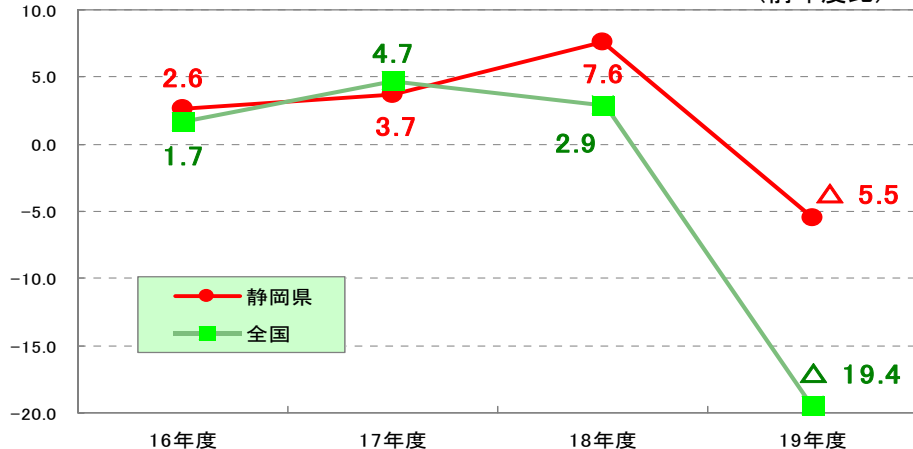
(億円、%)



新設住宅着工戸数の推移

(%)

(前年度比)



〔20年度計画〕

- 円貨貸出金平残増加 +1,098億円
- 利息増加 +21億円
- 預り資産販売による収益73億円

〔主な取組み〕

〔19年度実績〕

〔20年度計画〕

消費者ローンの積上げ(末残増加)	+1,391億円	+1,156億円
住宅ローンの獲得	1,602億円	1,650億円
グループの株式投信販売額	1,188億円	1,602億円
個人年金保険販売額	1,201億円	1,150億円
個人円貨預金の積上げ(平残増加)	+997億円	+1,355億円
セカンドライフ応援定期預金	776億円	250億円(※)
joyca累計会員数	193,964件	+100,000件

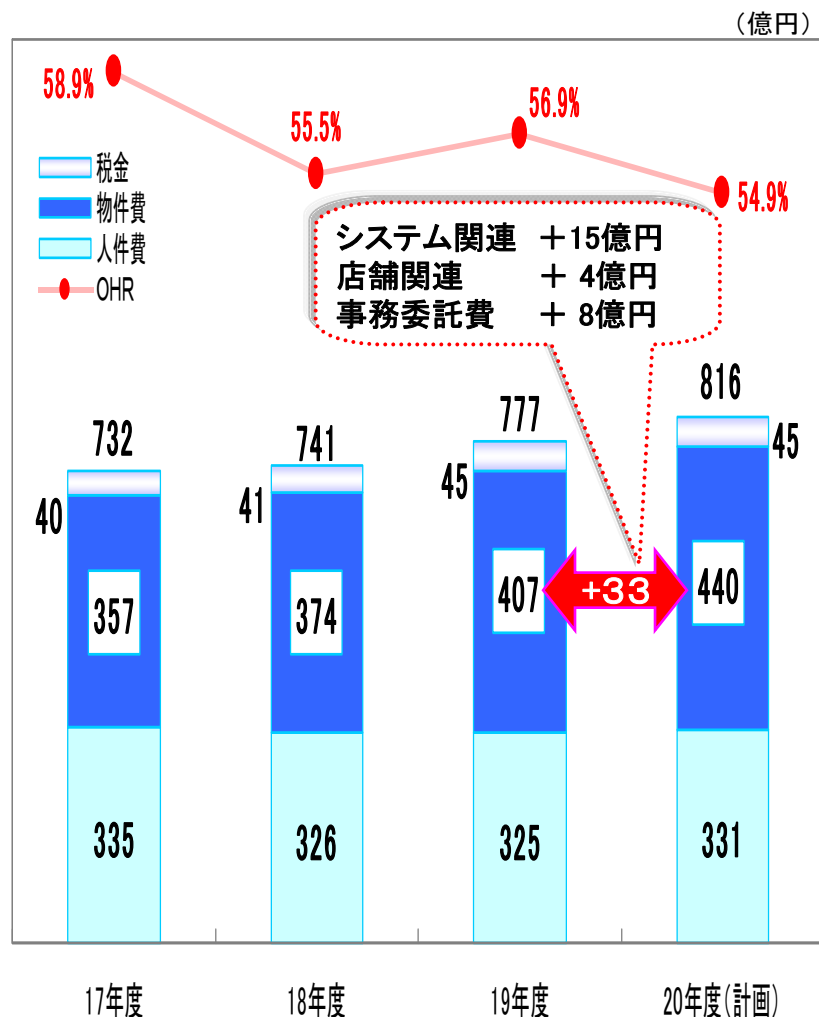
※20年度上期計画



経費および投資・人員計画

- 平成20年度経費は、営業店の生産性向上のための業務効率化、および業務推進施策の展開により増加を見込む
- OHRは55%を目安として適切にコントロールしていく

経費およびOHRの推移



投資額の推移

※キャッシュアウトベース

(億円)

〔主な投資額〕	投資額の推移				
	17年度	18年度	19年度	17～19年度 (3年間累計)	20年度計画
システム連	56	53	127	236	69
店舗関連	23	41	23	87	91
合計	79	94	150	323	160

〔経費〕

〔経費〕	17年度	18年度	19年度	17～19年度 (3年間累計)	20年度計画
システム関連	103	109	124	336	139

人員の推移

(人)

	17年3月末	18年3月末	19年3月末	20年3月末	21年3月末 計画
銀行全体	3,120	3,038	3,073	3,149	3,190
うち行員	3,077	2,953	2,881	2,851	2,780
クワイートパートナー	43	85	192	298	410



平成20年度の業績予想

(億円)

【連結】

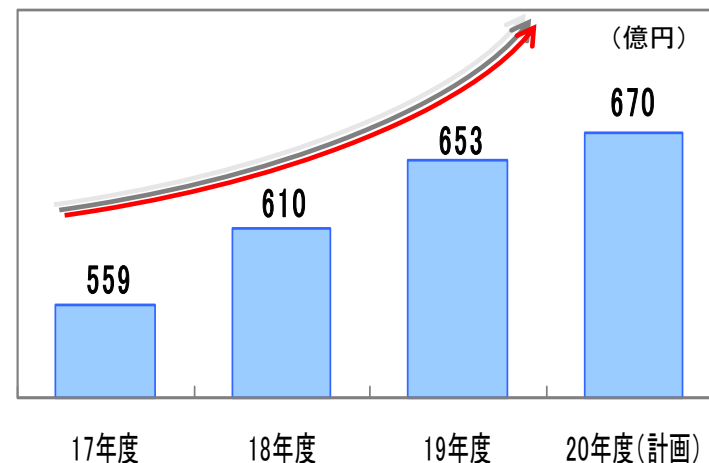
	19年度 実績	20年度 予想	前年度比
連結経常収益	2,451	2,330	△121
連結経常利益	651	690	+39
連結当期純利益	348	400	+52

【銀行単体】

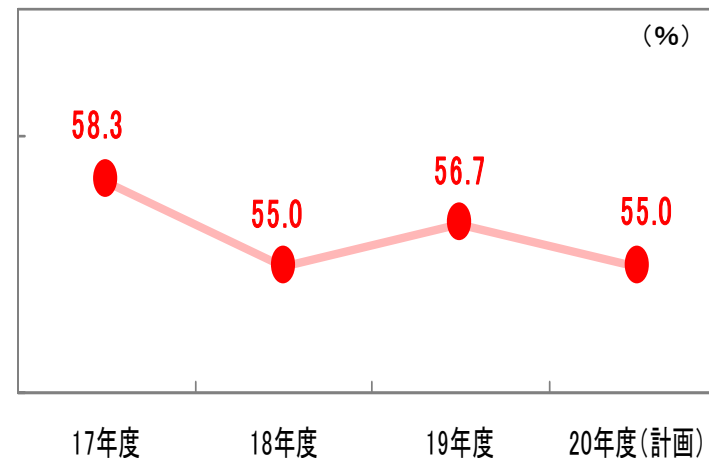
	19年度 実績	20年度 予想	前年度比
経常収益	2,135	2,000	△135
業務粗利益	1,365	1,486	+121
経費 (△)	777	816	+39
一般貸倒引当金繰入額(△)	△2	△20	△18
業務純益	590	690	+100
基礎的業務純益	653	670	+17
不良債権処理額 (△)	78	54	△24
株式等関係損益	103	15	△88
経常利益	617	650	+33
当期純利益	352	390	+38

与信費用 (△)	75	34	△41
----------	----	----	-----

基礎的業務純益推移



連結OHR推移



過去最高益

静岡県経済の強み（１）

〈経済規模〉静岡県経済は「３％、１０位の経済圏」と称せられ、多くの経済指標が全国シェアで３％、都道府県別で１０位前後に集中しており、全国的にも高水準の経済力である

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
県内総生産（億円）	159,805	164,150	—
国内総生産	4,984,906	5,038,447	5,118,770
県内総生産の順位	10位	10位	—
県内製造品出荷額（億円）	166,998	173,227	※181,882
国内製造品出荷額	2,844,721	2,958,003	※3,146,193
県内製造品出荷額の順位	3位	3位	※3位

注）年度ベース

※速報値

〈健全性〉静岡県内の企業倒産率は低水準にあり、健全で体力のある企業が多い。また、地公体の財政も全国的にみて健全である

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
企業倒産率（静岡県）	0.320％	※0.169％	0.254％	0.230％
〃（全国）	0.419％	※0.252％	0.285％	0.317％
〃（低い方から順位）	7位	※8位	21位	7位
信用保証協会代位弁済率（静岡県）	1.76％	1.57％	1.87％	1.83％
〃（全国）	2.74％	2.38％	2.37％	2.70％
〃（低い方から順位）	12位	7位	10位	3位
財務力指数（静岡県）	63.7	65.3	69.6	—
〃（全国）	41.1	42.8	46.4	—
〃（順位）	5位	6位	—	—

注）企業倒産率は暦年ベース、それ以外は年度ベース

※平成17年4月より、任意整理を除外した法的整理のみを対象としている

静岡県経済の強み（２）

〈成長性〉静岡県はニュービジネスに取り組む企業も多く新しい産業が生まれている

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
研究開発事業計画認定企業数(※1) (静岡県)	21			
〃 (順 位)	5位			
経営革新計画承認企業数(※2) (静岡県)	174	194	233	262
〃 (全 国)	4, 322	4, 421	5, 258	4, 736
〃 (順 位)	7位	7位	7位	5位
新連携認定企業数(※2) (静岡県)		6	5	10
〃 (全 国)		162	158	142
工場立地件数(静岡県)	81	85	102	124
〃 (全 国)	1, 302	1, 544	1, 782	1, 791
〃 (順 位)	1位	3位	3位	1位

※1 旧中小企業創造法に基づく認定企業

※2 中小企業新事業活動促進法に基づく承認・認定企業

注) 工場立地件数は暦年ベース、それ以外は年度ベース

〈地域の雇用・企業収益〉

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
有効求人倍率 (静岡県)	1. 04倍	1. 14倍	1. 25倍	1. 21倍
〃 (全 国)	0. 83倍	0. 95倍	1. 06倍	1. 04倍
月平均賃金 (静岡県) (千円)	326	333	—	—
〃 (全 国)	333	335	—	—
〃 (順 位)	15位	6位	—	—
企業収益(前年比)(静岡県)	+15. 4%	△0. 5%	12. 2%	△3. 2%
〃 (全 国)	+20. 3%	+12. 3%	10. 1%	△1. 6%

注) 有効求人倍率については年度末月ベース、月平均賃金は暦年ベース、それ以外は年度ベース

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。